

# 1. 評価報告概要表

作成日 2007年10月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072000381
法人名	医療法人富士たちばなクリニック
事業所名	グループホームゆめさき
所在地	群馬県勢多郡富士見村大字原之郷975 (電話) 027-288-1643

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年10月3日

## 【情報提供票より】(19年 8月 27日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算 8人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての,	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 300,000	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	400 円	昼食 550 円
	夕食	600 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 1600 円		

### (4) 利用者の概要(8月 27日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	3名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 83.3歳	最低 77歳	最高 93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	富士たちばなクリニック
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ショッピングモールからほど近く、畑に囲まれた静かな環境に立地している村内唯一のグループホームである。法人の医療機関、隣接のデイサービス、訪問看護ステーションとの連携が充実している。家族会が機能しており、家族の交流も多い。月1回は外食やドライブを計画し、また計画がなくても天気の良い日は外出をする等、気晴らしや楽しみ事を多く取り入れている。管理者は、皆が「今日も楽しかった」と思える日々を送れるように職員と共に日々の介護を行っており、ホーム内の雰囲気からもそれを感じられる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果については、全職員で受け止め改善に取り組んだ。会議を開催しなくても日々の話し合いで問題はないとしていたが、月1回全職員参加の会議を設け、ケアや運営について話し合い、活発な意見交換の場として機能している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、年2回全職員がそれぞれ取り組み、管理者がまとめている。職員一人ひとりが自分のケアについて振り返る良い機会となっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議設置要綱が作成されている。会議では、評価結果や取り組みについての報告を行ない、意見をいただいている。自治会会報にホームについて載せていただいたことでホームの隣の畑を無償で貸していただけたり、ホームへの問い合わせが増え、見学にホームを開放する等の取り組みが増えた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情窓口は書類に明記され、入居時とその後年1回は家族に対して説明をしている。家族会が機能しており、意見交換や家族向けに認知症や介護保険等の勉強会を実施している。家族から出された意見や苦情については全職員で受け止め、早急に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入している。地域の清掃活動に利用者と共に参加している。運営推進会議を通じて地域の人々にホームを知ってもらいながら、職員が地元出身ということもあって運動会に招待され出かけて行くなど交流を深めている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分の家と思えるように、そして安心してゆったりと気持ちよく暮らしていただきたいという理念を掲げている。地域の中での暮らしは実践しているが、理念に盛り込まれていない。	○	すでに実践されている地域の中で暮らし続けるための支援を、ホームとして目指すものとして理念につくりあげていただけることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念の実践にむけて、利用者一人ひとりの生き方を尊重したケアについて職員と話し合い、確認しあいながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域の清掃活動に、利用者と共に参加している。地域の人々に、自治会長の協力もありホームについて知ってもらえたことで、畑を無償で貸していただいたり、村の運動会に招待されたりと交流が広がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年2回、職員一人ひとりが自己評価票に沿って評価を行っており、日々の自分たちのケアを振り返るよい機会となっている。外部評価結果は、会議の中で話し合い、改善に向けて全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では評価結果や取り組みについての報告を行い、意見をいただいている。会議のなかで「地域との交流を深めたい」という意見から、自治会会報にホームについて載せていただくことでホーム隣の畑を無償で貸していただいたり、ホームへの問い合わせが増え、見学に開放する等の取り組みが増えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、法人として道路整備依頼や施設増設についての話し合い等で役場と連絡をとる機会があるが、運営・サービスについての連携には至っていない。	○	日頃からホームの実情や取り組みを伝える機会をもち、ホームの考え方を知ってもらえるように働きかけることを期待する。その上で役場との共通の認識をもち、サービスの向上にむけて連携していかれることを期待する。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、ホームの記事も載せている法人の新聞を家族へ送付している。面会が少ない家族には、2ヶ月に1回管理者が電話を入れ、近況を知らせ家族からの希望を聞いている。利用者ひとりあたり一万円程度の預かり金があり、預り証を発行して個人毎の出納帳に記入し家族に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの苦情窓口及び行政その他の苦情受付機関を重要事項説明書に明示し、入居時とその後年1回は家族に説明をしている。家族会があり、意見を言いやすい場として機能している。出された意見等については全職員で受け止め、早急に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の成長のため、また各施設の運営上、一年間に2人位の職員の交代がある。異動の際は家族会でも挨拶をしている。異動に対して家族から不満も出るが、法人内の行事等交流が多く、異動後も会える機会は多いことで理解をいただいている。利用者とは早く馴染めるように、日々の役割で新入職員を前面に出すよう、周囲がバックアップしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強委員会主催の勉強会が開催され、職員は参加している。また法人外の研修に、希望または管理者からの指示により参加し、会議の場で研修報告を行ない職員間で知識を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村内のグループホームは1件であるが、近隣にある同法人のグループホームとの交流が活発であり、サービスの質の向上に関しての意見交換の場ともなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決定する前に、管理者が家庭訪問をし、本人家族と会って説明をし、顔を知ってもらう。その後、ホームに見学に来てもらうなど段階的にすすめ、少しずつ馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から季節の行事の意味や古くからのやり方等を教えてもらう機会が多い。職員は、利用者から落ち込んでいる様子を察してそっと慰められたり、共に楽しんだり、共に支えあい生活しているのだと実感することがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員による新聞の読み聞かせが日課になっている。新聞に掲載している地域や季節の話題などをもとに会話をひきだしながら、利用者の食べたい物や行きたい場所を把握するように心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントでは、家族と管理者がシートを作成し、その後新たに見えてくるものや把握する情報があるため期間をあけて、職員が作成する手順をふんでいる。計画作成には家族から意見をいただき、職員の意見をふまえて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の会議で、介護計画の見直しを行なっている。利用者に変化が生じた時には、その時点で見直し検討を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空いている部屋があればショートステイができる体制があるが、空き部屋がないため実績はまだない。点滴等の医療処置を受けながらホームでの生活が続けられるように支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の病院医師が、月1回往診し健康管理がされている。かかりつけ医の受診は、家族の付き添いが基本であるが、できない場合は職員が付き添うこともある。受診結果は、家族とホーム間で確実に報告している。法人の医師とかかりつけ医の連絡も確実に行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望を尊重して、法人の老人保健施設の痴呆棟への転居、ホームでの看取り等、医師を交えた話し合いを行ない、方針を決定している。管理者は、職員に対しても重度化や終末期の介護への心構えについて話している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入職時に守秘義務について誓約書を交わしている。また利用者への対応や記録物の扱い等、尊厳に関わることについて、会議の場で確認している。利用者には、ボランティア対応について家族に確認し承諾をいただいている。また自宅の近所の人の面会の場合は、家族に了承を得たうえで面会をしていただいている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や新聞の読み聞かせなど、日課としての流れはあるが、利用者のペースを尊重して支援している。散歩や買い物など利用者の希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながら当番の職員が献立をたて、食材を利用者も一緒に買いに行くこともある。食事の準備や片付けは、利用者も一緒に行なっている。食事時は各テーブルに職員が座り、会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制があるが、利用者の希望に合わせて一日おきの入浴が多い。午後1時頃から入浴の時間となっており、一人ずつゆったりと入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、掃除や洗濯物たたみ・めだかの世話等の役割を持ち行なっている。また、ホームの周囲に咲く草花を生けたり、畑仕事をしたりと、その人の趣味や能力に合った楽しみごとができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、日常的に買い物や散歩に出かけている。隣の畑に出て作業をしたり、畑に置かれているベンチでお茶を飲んだり、その日の状況により戸外で楽しんでいる。同法人の老人保健施設で歌や踊りの催し物があると出かけて行く。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の中扉は利用者の状況によっては、安全確保のために施錠することがある。この中扉は施錠しても外からは入れるようになっており、施錠については家族会で説明をし同意を得ている。利用者が外出したそうな様子の時には一緒に付いて行き見守っている。近所の人には、一人で出歩いている時に声をかけてもらえる関係を築いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災時の避難訓練を行なっている。法人施設が近くにあり、訓練や協力体制について話し合っている。デイサービスと隣接しており広いスペースが確保できるので、災害発生時の地域の方の避難場所としての活用を村に申し出ている。災害時の備品についての準備はされていない。	○	災害の発生に備え、食料や飲料水、寒さをしのげるような物品を準備されることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は、表に記載され把握できるようになっている。法人の管理栄養士から、月に1回献立の栄養バランスや糖尿病の方の食事量についてアドバイスを受けている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は明るく、清潔に保たれている。目印や表示は必要最小限にとどめられ、季節の花や畑で採れたさつまいも、利用者で作った季節感のある作品が飾られ、目を楽しませてくれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居決定前の家庭訪問時に部屋の様子を見せていただき、入居の際には使い慣れた物の持込みを積極的に勧め、自宅に近い雰囲気づくりがされている。写真や思い出の品が飾られ、個々に合った部屋作りがされている。		